

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭55-44195

⑪ Int. Cl.<sup>3</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和55年(1980) 3月28日

F 16 G 1/08

2125-3 J

B 65 G 15/32

7539-3 F

15/34

7539-3 F

15/36

7539-3 F

F 16 G 5/06

2125-3 J

発明の数 5

審査請求 未請求

(全 7 頁)

⑭ エンドレス可撓ベルト

カ州リンカーン・ルート 8

⑮ 特 願 昭54-120179

⑯ 出 願 人 ザ・グットイアー・タイヤ・ア

⑰ 出 願 昭54(1979) 9月20日

ンド・ラバー・コンパニー

優先権主張 ⑱ 1978年 9月21日 ⑲ 米国(US)

アメリカ合衆国44316オハイオ

⑳ 944485

州アクロン・イースト・マーケ

ット・ストリート1144

㉑ 発 明 者 ラルフ・ダブリュ・ケル

㉒ 代 理 人 弁理士 若林忠

アメリカ合衆国68506ネブラス

明 細 書

1. 発明の名称

エンドレス可撓ベルト

2. 特許請求の範囲

(1) 少なくとも2個のプーリー間を作動し、そして成型した弾性本体と、相対する内側面と外側面を有し、その内側面はベルトの使用時、プーリー軸に向うようになつており、その内側面に近い位置でベルト内に埋め込まれた複数の縦方向の高引つばり係数コードと、外方へ面し、外側面を形成する事実上、非圧縮性材で成る層と、その非圧縮性材はベルトを両プーリー間でまっすぐにのばした位置にある時、そのベルトに対して耐後方屈曲特性を備えるように、前記ベルトの裏面と表面との総合厚みの少なくとも50%で成る事で成りつつエンドレス可撓ベルト。

(2) 前記事実上、非圧縮性材はベルトをプーリー間でのばした時、端部と端部が当接関係になつたブロック材を形成するように切込みを

入れたエラストマーであり、前記切込みはベルトがプーリーをまわる時にブロックを分離させてプーリーをまわる時のベルトの可撓性を高めるようにする事を特許請求の範囲第1項に付加したベルト。

(3) エラストマーは高密度の繊維を入れた複合物で成ることを特許請求の範囲第2項に付加したベルト。

(4) ベルトの横断面の形は矩形であることを特許請求の範囲第1項に付加したベルト。

(5) ベルトの横断面の形は台形であることを特許請求の範囲第1項に付加したベルト。

(6) 事実上、非圧縮性材は総ベルト厚みの50%~75%で成ることを特許請求の範囲第1項に付加したベルト。

(7) 少なくとも2個のプーリー間で作動するようになつていて、ほぼ矩形の横断面と、相対する内側面と外側面とを有し、その内側面はベルトの使用時、プーリー軸に向つてゐる事と、内側面を形成する耐摩損性エラストマー

(1)

(2)

を入れこんだ本体部分と、耐摩損性布のとなりにあつて、その中に埋め込まれた複数の縦方向の高引つばり係数コードを有するクッションエラストマーと、

ベルトをプーリー間でまっすぐに伸ばした時、そのベルトに耐後方屈曲特性を与えるように締め装置により端部と端部の当接関係で本体部分に取付られた事実上非圧縮性材の複数のブロックとで成りたつエンドレス可撓ベルト。

- (8) 非圧縮性材のブロックは高密度繊維を入れたエラストマーで成りたつことを特許請求の範囲第6項に付加したベルト。
- (9) 非圧縮性材のブロックは高密度プラスチックで成ることを特許請求の範囲第7項に付加したベルト。
- (10) 非圧縮性材はベルトの総厚みの50～75%で成ることを特許請求の範囲第7項ないし第9項のいずれかに付加したベルト。
- (11) コンベア駆動プーリーと引き締めプーリー

(3)

る事と、相互に係合する切欠部と突起との結合体と、ベルトとコンベアの引つばりコードの分離とにより、コンベアの表面に負荷を支持する耐後方屈曲特性が備えられる事とで成りたつ前記エンドレス可撓ベルト。

- (12) 切欠部はベルトの一端に沿つて位置づけられることを特許請求の範囲第11項に付加したベルト。
- (13) 切欠部はコンベアにある合致用駆動突起と結合するためベルトの両端に沿つて位置づけられることを特許請求の範囲第11項に付加したベルト。
- (14) ベルトの外側層は耐圧縮性の高密度の繊維を入れた弾性複合物で成ることを特許請求の範囲第11項に付加したベルト。
- (15) 非圧縮性外側層はベルトの総厚みの50～75%で成ることを特許請求の範囲第11項に付加したベルト。
- (16) 非圧縮性外側層はベルトの総厚みの少くとも50%で成ることを特許請求の範囲第14

(5)

特開昭55-44195(2)

との間の部分でコンベアの支持体となるようにコンベアと結合して使用されるエンドレス可撓ベルトであつて、前記ベルトは、コンベアの内面にある駆動突起と結合し、それと駆動的な同期状態で作動するようにコンベアの駆動プーリーと引締めプーリーとの間の適切な位置でコンベアの内側通路に装着された少くとも2個のプーリー間を作動し、前記ベルトは成型弾性本体と相対する内側面と外側面とを有し、前記内面はプーリーに向い合つており、外側面は作動時、コンベアと結合する事と、

ベルトの内面に近い所に埋め込まれた複数の縦方向の高引つばり係数コードを有するクッションエラストマー層と、

そのクッション層のとなりにあつて、ベルトの外側面を形成する事実上、非圧縮性エラストマー層と、前記ベルト構造体はコンベアと結合するようにコンベア駆動突起と一線に並ぶような位置にある複数の切欠部を有す

(4)

項に付加したベルト。

- (17) 少くとも2個のプーリー間で作動し、ほぼ矩形の横断面の成型本体を有し、又、相対する内側面と外側面とを有し、その内側面はベルトの使用時、プーリー軸へ向いていようなエンドレス可撓ベルトであつて、耐摩損性のエラストマーを入れこんだ繊維性内側面層と、その耐摩損層のとなりにあつて、複数の縦方向の高引つばり係数のコードを有するクッションエラストマー層と、そのクッション層のとなりにあつて、複数の低引つばり率コードを有する事実上非圧縮性エラストマーの外側層と、プーリーのまわりをまわる時、のびるが、プーリー間でまっすぐになる時圧縮に耐えて、そのベルトに対して耐後方屈曲特性を与えるようにベルトの外側面の近くに埋め込まれた高圧縮係数の単線条とで成りたつ前記ベルト。
- (18) その単線条はナイロンであることを特許請求の範囲第17項に付加したベルト。

(6)

09 単線索はポリエステルであることを特許請求の範囲第17項に付加したベルト。

04 駆動プーリーと引き締めプーリーとの間で確実な様式で作動するように横方向の突起と溝とを有するエラストマー<sup>(1)</sup>成る内側圧縮層と、エラストマーの外側層に高引つばり係数を埋め込んだコンベアベルトと、コンベアの内側通路に位置づけられた少くとも2つのプーリー間で作動するようになったエンドレス可撓ベルトと、そのベルトは成型弾性本体と内側面と外側面とを有し、その内側面はベルトの使用時、プーリー軸へ向っている事と、前記ベルトは、その内側面近くに埋め込まれた複数の高引つばり係数コードと、その外側面を形成し、コンベアの突起と溝とに結合する際、横行突起と溝とを有する事実上の非圧縮性材層とで成りたち、相互係止用突起と溝の結合せと、ベルトの引つばりコードの分離とによりコンベアの表面上に負荷を支持する耐後方屈曲特性が提供される事との結合体。

(7)

### 3. 発明の詳細な説明

本発明は一般に、可撓ベルトに関し、特にコンベアタイプで使用される耐後方屈曲特性を喪失ベルトに関する。

耐後方屈曲特性を有するベルトは、例えば、コンベアベルトのように、ベルトがその上を運ばれる或る負荷を支持せねばならないような種々の例に有用である。本発明は、ベルトそれ自身がそれで運ばれる負荷を支持せねばならないか、又はそれが第2支持装置として使用されるようなタイプの応用例に使用され、その際、第1コンベアは一次駆動ベルトであり、負荷を支持するが、第2ベルトは駆動プーリーと引き締めプーリーとの間の部分に負荷がかかるとき、一次ベルトを支持するために使用される。後者のタイプについては、“軌道車両懸垂装置”という名称で本出願と同時に出願したものに説明されている。その出願に於て懸垂システムは次のように説明されている。即ち、一次ベルトが雪上車の雪上軌道であり、それは軌道に沿つて

(8)

軌道の内側に位置づけられる二次ベルトにより地面側に支持され、そしてその軌道と結合してそれにより駆動されるが、これは後方屈曲に対する抵抗を表し、かくして、それが地形に従う時、軌道をその曲面に保持する。

本発明のベルトは単独で、或いは一次コンベアと組合せて操作するように設計され、そして、ベルトの圧縮部分が従来の内方とは違つてプーリー軸及びその移動通路に対して外方に向いているという事実によりこの分野の他のタイプのベルトと異なる。この状況で、引つばり部材はプーリーに接触する内向き面に近く位置し、圧縮部分は事実上、非圧縮材でなり、それはベルトの外向き面に近く位置する。

従つて、本発明の主な目的は、プーリーをまわる時、可撓性をもち、プーリー間でまつすぐにのびる時、後方屈曲に対する抵抗を表すようなベルトを提供することである。前述の目的やその他の目的及び効果は次のもので成る耐後方屈曲ベルトで達成される。即ち、少くとも2つ

(9)

のプーリー間で作動し、成型弾力本体と、相対する内側及び外側面を有し、その内側面がベルトの使用時、プーリー軸に向いているようなエンドレス可撓ベルトであり、そのベルトはその内側面近くに埋め込まれた複数の縦方向の高引つばり係数コードと、外方へ面し且、外側面を形成する事実上、非圧縮材の層とで成りたち、その非圧縮材は前記ベルトの表面と表面との結合厚みの少くとも50%で成り、それがプーリー間でまつすぐな位置にある時、ベルトに対して耐後方屈曲特性を与える。

本発明の特徴は添付図面に関連して説明された詳細な説明からもつと明らかとなるであろう。

ここではじめに第11図を参照すれば、本発明の教えを利用したコンベアが符号10により示され、駆動プーリー12と、引張りプーリー14と、ベルト16とで成りたつ。従来のコンベアシステムは一般に、図面の“X”で示す両プーリー間の部分に、ベルト支持のために複数の遊びローラー18(点線で示す)を利用して

00

いる。本発明は、遊びローラー18の全部ではなくてもいくつかをも備える必要をなくすように耐後方屈曲特性を表すようなベルト16を備える。これを達成するために、ベルト16はブリー12, 14のまわりを可撓性をもつてまわるような構造と設計でなければならないが、又、それが矢印20の方向へ作用する負荷力Fに逆つて両ブリー間でまっすぐになる時、屈曲に対する抵抗を表わさなければならない。コンベア10は第11図に示すような一次コンベアの如き多くの種々の用途に適用されるけれども、それは又第12図に示すような二次コンベアの如く用途にも適用出来る。

ここで第12図を参照すれば、一次コンベアは符号22で示され、そのシステムは駆動ブリー24と引張りブリー26とベルト28とを有する。

ベルト28の内側通路内には、第11図に示すのに似た二次コンベア10aが装着され、その目的はその耐後方屈曲特性によりベルト28

00

れている。ベルト40は横断面が矩形か、又は台形の平担形であつて、普通のベルト形成技術により作られる。ベルト構造体を構成する材料は又、ベルト形成技術に於て、一般的のものであり、本発明は使用される種類の材料によつていかに制限されるものではない。例えばベルト構造体は複数のコード46を中に埋め込んだクッション部分で成りたち、それらのコードはナイロン、ポリエステル、レーヨン、ガラス、鋼又はアラミド又はそのような多数繊維束が単繊維束コードで成る。コード46は引っぱり係数が大きく、ベルトの内面42近くに位置づけるのが好ましい。その引つがりコード46の上層はクッション部分で成るエラストマーか又は適切なエラストマー内に耐摩損、バイアス又は矩形織布48を有するものであり、引っぱりコード46の外側の層は圧縮に抵抗するソリッド材、又は繊維を加えた材50で成る。この状況で、符号50で示す部分は事実上、非圧縮性材であつて、ブリーのまわりで一層可撓性

03

特開昭55-44195(4)

を支持することである。二次コンベア10aはかくして、ベルト28に対するその影響部分に複数の遊びローラー18をなくし、力の方向を表す矢印30により示される負荷を運ぶ際、そのベルト28をその適切な水平位置に保持する。前述のように、本発明のベルトは種々の型のコンベアに適用され、雪上車の雪上軌道の支持体も例外でない。10bを示す点線によつて第12図に示すように、二次コンベアはコンベアの底部内側通路(即ち、雪上軌道)に位置づけられ、ベルト28'を矢印30'の方向へ作用する力に逆りような位置に保持する。雪上軌道に於て、耐後方屈曲ベルト16'は軌道28'が地形に一致する時、その軌道28'を地面に保持する。この型の応用例については前述の出願中のものに充分に説明されている。

ここで、第1, 2図に戻れば、本発明の必要を満足させるベルトは符号40で示されている。このベルトの内面、即ちブリーと接触する部分は符号42で示され、外面の符号44で示さ

02

をもたせるように符号52の所に切り込みが入れられており、ベルトが両ブリー間でまっすぐに張る時、切込み52により形成されるブロック54はお互いに端と端が楔形になり、かくして耐後方屈曲特性が達成される。

第3図は第1図に示すベルトに類似した耐後方屈曲特性ベルト56を示すが、材料ブロック58は締具60によりベルト本体に取附られる。そのブロックは種々のサイズ、種々の形、又、種々の材料で作ることが出来るが、符号62の所が当接関係になければならず、耐後方屈曲特性を達成するように事実上非圧縮材で作られなければならない。

第4, 5, 6図は事実上、平担ベルト70がコンベア72と駆動結合するようになった本発明の1つの実施例を示す。第1図のベルト40と同様に、ベルト70は引っぱり係数の高いコード74がベルトの内面76近くに位置することを特徴とする。しかしながら、そのベルト70は耐後方屈曲特性を達成する方法がベルト40

04

と異なる。かくしてベルト70はコンベア72の内面に駆動突起80をはめ込むように形造られた切欠部、又はスロット78を特徴とする。その切欠部78はプーリーのまわりをまわる時、ベルトの可撓性を増すが、コンベアの突起80と結合する状態では、2つのベルトの結合と、特に、それらベルトの引っぱり部材の分離は、耐後方屈曲特性を達成する部分を非常に堅くする。その極端に堅い結合は、結合した表面と表面との厚みの少くとも50%の引っぱりコードの分離により生じる。かくしてベルト70の引っぱりコード74及びコンベア72の引っぱりコード82の分離と、駆動突起と切欠部結合体による2本のベルトの係合結合により、耐後方屈曲特性が達成される。ベルト70はベルト40ほど厚みを有せず、又、それほど、切込みも入れていないことに注意すべきであり、切欠部78はプーリーをまわるのに必要な可撓性を備えるだけである。

第7, 8図は第4図に示すベルトに類似した

09

は、一連の低係数単繊維98であつて、これは例えば、ナイロンやポリエステル単繊維のような耐圧縮性を有する。その単繊維はかくしてプーリーのまわりをまわる時にのびるが、両プーリー間で引っぱる時に圧縮に抵抗し、矢印100の方向へ後方屈曲負荷Fがかかる。

本発明のもう1つの実施例が第13図に示されており、この確実な駆動型ベルト102は横行突起104と、二次ベルト108と結合する溝106とを有する一次コンベアであり、前記二次ベルト108は又、突起110と溝112とを有する確実な駆動型ベルトである。2本のベルト102, 108は突起がプーリー軸に対して外方へ面するように、二次ベルト108の位置づけ理由により突起と溝との合致結合状態にある。この状況で、二次ベルトは事実上非圧縮材で成る圧縮部分114を特徴とし、コンベア102は確実な駆動形で駆動プーリーに引っかかるように内向きになったその圧縮部分内にクッション複合物を有する従来の型のベルトで

07

特開昭55-44195(6)

ベルト90を示すが、コンベア88の駆動突起86と結合するためにその両側に切欠部84を有する。このベルトはベルト70と同じ方法で耐後方屈曲特性を達成し、その可撓性は2組の切欠部により更に増す。しかしながらベルト90はコンベアの駆動突起と結合する時、尚、極端に堅い部分を表し、この実施例でベルトの幅Wは二重切欠部を適応させ、コンベア88との接触面を増すように幾分、大きくなる。

又、側部切欠部84をコンベア88の一系列の駆動突起86と結合する中心穴84a(点線で示す)におきかえ、かくして、2本のベルトの相互結合を達成し、又、第4, 7図に関連して前述したのと同じ方法で耐後方屈曲特性を達成することも考えられる。

第9, 10図は更にもう1つの実施例の耐後方屈曲ベルト92を示し、これはそのベルトの内面96に接近して位置する非常に高係数の引っぱりコード94を特徴とする。その引っぱりコード94から外方に間隔をおいて位置するの

08

ある。2つのベルトの突起と溝との結合と、高係数コード120, 122の配置により、矢印126の方向への後方屈曲に抵抗する非常に堅い部分が生じる。第1~10図の実施例に於けるように、引っぱりコード120, 122は2本のベルトの表面と表面の分離 $S_1 \sim S_2$ の少くとも50%に等しい距離だけ分離されねばならない。

或る代表的な実施例と詳細について本発明の例示の目的で示して来たけれども、本発明の本旨と範囲から離れることなしに種々の変形がなされ得ることはこの技術に熟達した人々にとつて明らかであろう。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の必要を満足させる耐後方屈曲ベルトの正面図であり、そのベルトの内面は図面の上に当る。

第2図は第1図のベルトの正面から見た横断面図であり、

第3図は耐後方屈曲ベルトの第2実施例の正

09

面図であつて、一部断面で示されている。

第4図はベルトの内面から取つた平面図であつて、2本のベルトの結合体から耐後方屈曲特性を達成するために、コンベアの駆動突起と結合するようになったその一例に沿つて位置する切欠部又はスロットを示す。

第5図は第4図のベルトの正面横断面図であつて、ベルトと結合したコンベア、即ち軌道を示す。

第6図は第5図に示すベルトとコンベア結合体の側面図であり、

第7図は第4図のそれに類似した平面図であるが、そのベルトはその両側に沿つて駆動突起結合切欠部を有する。

第8図は第7図のベルトの正面横断面図であつて、そのベルトと結合するコンベア、又は軌道を示す。

第9図は耐後方屈曲ベルトの更にもう1つの実施例の側面図であり、

第10図は第9図のベルトの正面横断面図で

あり、

第11図は本発明の耐後方屈曲ベルトの利用したコンベアシステムの正面図であり、

第12図は一次コンベアに対して二次支持コンベアとして使用される耐後方屈曲ベルトのもう1つの応用例を示し、

第13図は耐後方屈曲特性を達成するために共働する一次確実駆動コンベアと二次確実駆動ベルトとで成る実施例を示す。

10・・・コンベア

12・・・駆動プーリー

14・・・引き締めプーリー

16・・・ベルト

18・・・遊びローラー

22・・・一次コンベア

24・・・駆動プーリー

26・・・引き締めプーリー

28・・・ベルト

10a・・・二次コンベア

40・・・ベルト

44・・・外側面

42・・・プーリー

46・・・コード

48・・・矩形織布

50・・・繊維を入れこんだストック

54・・・ブロック

60・・・締め具

70・・・ベルト

72・・・コンベア

74・・・高引っぱり係数コード

78・・・スロット

80・・・駆動突起

90・・・ベルト

84・・・切欠部

86・・・駆動突起

88・・・コンベア

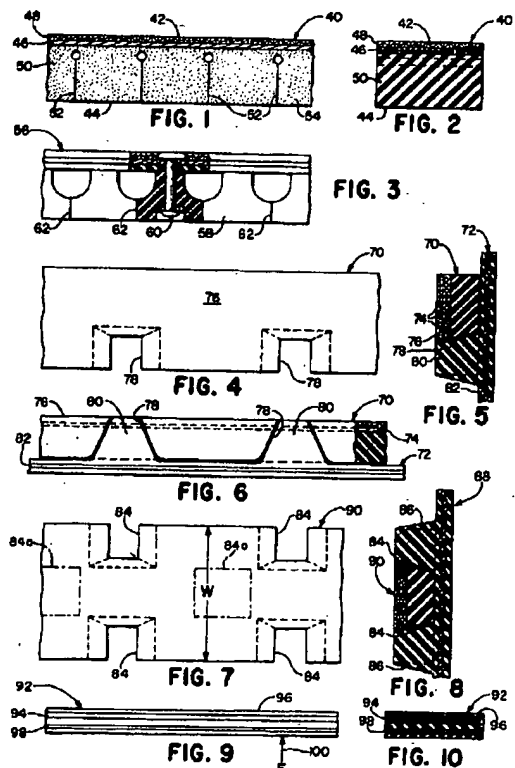
92・・・耐後方屈曲ベルト

94・・・引っぱりコード

特許出願人 ザ グッドイヤー タイヤ アンド

ラバー コンパニー

代理人 若 林



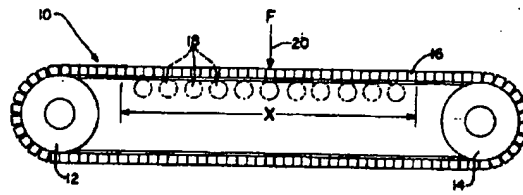


FIG. 11

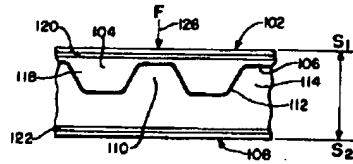


FIG. 13

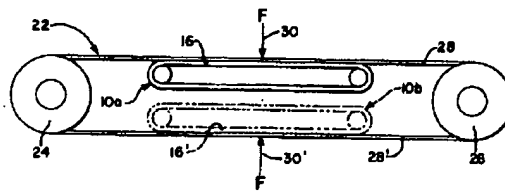


FIG. 12

特許法第17条の2の規定による補正の掲載

昭和 54 年特許願第 120/79 号(特開昭  
55-44195 号 昭和 55 年 3 月 28 日  
発行公開特許公報 55-442 号掲載) につ  
いては特許法第17条の2の規定による補正があっ  
たので下記のとおり掲載する。

Int.Cl.	特許 番号	庁内整理番号
F16G 1/08		2125 3J
B65G 15/32		7539 3F
15/34		7539 3F
15/36		7539 3F
F16G 5/06		2125 3J

手 続 補 正 書

昭和 56 年 2 月 21 日

特 許 庁 長 官 殿

1. 事件の表示 昭和 54 年 特 許 願 第 120/79 号
2. 発明 の 名 称

エンドレス可撓ベルト

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

ザ グッドイヤー タイヤ アンド ラバー コンパニー

4. 代 理 人

住 所 東京都港区赤坂 1 丁目 9 番 20 号

第 16 興和ビル 8 階

氏 名 弁理士(7021) 若 林 忠

電話(585)1882

5. 補正命令の日付 なし(自発補正)

6. 補正の対象 明細書の「特許請求の範囲」の欄。

7. 補正の内容 特許請求の範囲を別紙に補正する。

特 許 請 求 の 範 囲

1. 弾性の本体および相対する内面と外面を有する  
少なくとも 1 の可撓性ベルトを含む複数のブーリー  
の間の作業用のエンドレスな可撓性ベルト手段  
であつて、前記ベルト手段のいずれのベルトの内  
面もベルト手段が使用されるときブーリー軸に向  
けられており、前記 1 のベルトは内面に近くベル  
ト中に埋め込まれた長手方向に延長する高引張り  
係数の複数コードおよび外側に面しかつ外面を形  
成する事実上非圧縮材を含み、前記非圧縮材は前記  
前記内面の外方向に面し、前記非圧縮材は前記 1  
のベルトの外面から内面の全厚さの少なくとも 50  
パーセントからなり、それは前記ブーリー間の直  
接位置にあるときベルトに抗逆曲特性を与え、前  
記エンドレス可撓ベルト手段はさらにその内面上  
に駆動突起および長手方向に延長する引張りコー  
ドを含むコンベアベルトを包含し、前記コンベア  
ベルトはコンベア駆動ブーリーとティクアツプブ  
ーリーとの間で繰渡可能であり、前記 1 のベルト  
は前記コンベア駆動ブーリーとティクアツプブー

リーとの間の域において前記コンベアの補助用に  
提供され、前記 1 のベルトはその少なくとも 1 つ  
の横エッジに沿つて配置された複数のノッチを有  
しまた内面から外面へ係合状態にあるようにコン  
ベアベルト駆動突起と整列可能な位置において完  
全に通つて延長し、前記 1 のベルトは前記コンベ  
ア駆動およびティクアツプブーリーとの間の最も  
近い位置において前記コンベアベルトの内側小径上  
に配置された少なくとも 2 つのブーリーの間で繰  
渡可能であり、そのことは前記コンベアベルトの  
内面上の駆動突起と係合し共に同時駆動において  
走行するためであり、連結ノッチの結合および前  
記 1 のベルトと前記コンベアベルトの引張りコー  
ドの分離は前記コンベアベルトの外面上の荷重を  
受ける耐後方屈曲特性を与えることを特徴とする  
エンドレス可撓ベルト。

2. 前記コンベアベルトの駆動突起は 1 のベルトと  
係合するとき前記 1 のベルトのノッチに完全に充  
満することを特徴とする特許請求の範囲第 1 項記  
載のベルト。

3. 前記ノのベルトの外側層は耐圧縮性の高密度繊維充填弾性重合化合物よりなり、前記ノのベルトの耐圧縮外側層は前記ノのベルトの全厚の50ないし75パーセントであることを特徴とする特許請求の範囲第ノ項記載のベルト。

4. 複数のプーリー間での操作用のエンドレスな可撓性ベルト手段であつて、弾性本体および相対する内外面を有する少なくともノ個の可撓ベルトを含み、前記ベルト手段のいずれのベルトの内面も前記ベルト手段が使用されるときプーリー軸に向つており、前記ノのベルトは一般に方形の断面が成形された本体；剝離抵抗エラストマー飽和構造内面層；剝離抵抗層の次に埋込まれた長手方向に延長する高引張係数の複数のコードを有するクッションエラストマーの層；およびクッション層の次に実質的に非圧縮性の外面を含みまた前記ノのベルトの外面の近くに埋込まれた低引張り、高圧縮係数の複数の単繊維を有し、その前記ベルトはプーリーの周囲を通過するとき引伸される傾向にあるがプーリーの間で直線になつた時前記ノのベル

トに耐後方屈曲特性を与えるために圧縮抵抗することを特徴とするエンドレス可撓ベルト。